

平成 22 年 4 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530452

研究課題名（和文） 障害者家族の生活世界から捉えた包括的な社会的支援のあり方に関する研究

研究課題名（英文） A Study on Comprehensive Social Support System for Families of Persons with Disabilities from the Perspective of their Everyday Lives

研究代表者

要田 洋江 (YODA HIROE)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：90117987

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：障害学，排除の差別，障害の医学モデル，知的障害の定義，コミュニケーション支援

1. 研究計画の概要

本研究は、「障害のある人が人間として尊厳を持ち自らのライフスタイルを選択できる社会」をいかに築いくのかという視点から、障害者家族への包括的な社会的支援のあり方について構想しゆく研究の一環としてある。

(1) 障害のある子、とりわけ重度知的障害と呼ばれる子を抱える家族の困難の根本的問題を明らかにすること

(2) 障害のある人を排除する日本社会の仕組みを明らかにすること

(3) 「障害の医学モデル」による専門的支援の限界とその問題性を明らかにすること

(4) 現状の医療・保健、教育、社会福祉分野の支援の基本的枠組みにおける「障害の医学モデル」と専門的支援の関係を明らかにすること

(5) 障害当事者運動がもとめた「障害の社会モデル」に基づく支援、障害のある人の尊厳ある支援とは、どのような支援かを構想すること

2. 研究の進捗状況

現在まで、障害者家族の生活世界から問題および解決のあり方を探るための関係者への承諾を得て行ったインタビュー調査研究、日本社会における社会的障壁を探るための文献による歴史的研究、先進的取り組みを行っている海外への現地調査および関係者へのインタビュー調査研究により、以下の点が明らかとなった。

(1) 重度知的障害と呼ばれる人びとが抱

える社会的困難の最も大きなものは、当事者と周囲の人びとを繋ぐコミュニケーションのあり方に発生する。そして、知的障害と診断されることにより、学校教育をはじめその後の人生の選択が決定されてしまうことである。

(2) 知的障害のある人びとを「適切に」処遇するためになされる「診断」が結果として、本人の人生選択を狭める壁となっている。この背景には江戸期身分制度の「排除の差別」があり、近代において「障害の医学モデル」が形成され、社会福祉政策における隔離収容型処遇の根拠となっていた。

(3) 重度知的障害のある人びとのコミュニケーション支援が十分に進展しない社会の壁として、「障害の医学モデル」である表出言語を前提とする専門的知識の存在が認められる。

(4) 「障害の医学モデル」による知的障害概念によって、診断を受けると同時に、当事者の成長をも否定するものとなり、一般の人びとによるスティグマ形成を促すだけでなく、当事者の QOL を高める支援的言語的コミュニケーションの可能性を否定することとなっている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

重度知的障害者と呼ばれる人びとへどのような支援が求められるのかについて、当事者家族へのインタビュー、海外への調査、歴史的文獻研究など、幅広く研究を推進している。

4. 今後の研究の推進方策

障害当事者運動がもつめた「障害の社会モデル」に基づく支援、障害のある人の尊厳ある支援とは、どのような支援かを構想するために、諸外国の先進的取り組みの実際について学び、とりわけ、先進的取り組みのパラダイムを明らかにすると共に、当事者中心の実践を支援する側の専門的知識や具体的な支援内容を明らかにして、日本の現実をいかに変えていくかの方向および支援に携わる専門家に提言するべく調査研究を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

① 要田洋江 「重度『知的障害』者と呼ばれる人びとへのコミュニケーション支援に関する一考察—ファシリテイトド・コミュニケーション (筆談支援) 利用者の『社会的障壁』—」『生活科学研究誌』7号、71-101頁。2009 (査読あり)

② 要田洋江 「医学モデルによる近代日本の社会秩序構築—渋沢栄一と光田健輔が果たした役割—」『人権問題研究』10号、23-56頁、2010 (査読あり)

[学会発表] (計 2件)

① 小出梨絵・岡田典子・要田洋江 「重度知的障害者のコミュニケーション支援に関する社会的課題について—その1 社会的アプローチの必要性」第55回日本社会福祉学会大会、2007年9月

② 要田洋江・岡田典子・小出梨絵 「重度知的障害者のコミュニケーション支援に関する社会的課題について—その2 FC利用者の2事例から見た社会の壁」第55回日本社会福祉学会大会、2007年9月

[その他]

英文報告書

Hiroe YODA, “The Social Barriers for the Users of Facilitated communication: A Study on Communication Support for Persons with ‘Sever Intellectual Disabilities’, pp.1-58